



がんセンターだより

第73号
令和6年12月発行



〒362-0806
埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780
電話番号：048-722-1111(代表)
F A X：048-722-1129
HP：https://www.saitama-pho.jp/saitama-cc/



基本理念「唯惜命」

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、
先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、
がんで苦しむことのない世界をめざします。

発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長 影山幸雄

赴任にあたってのご挨拶



麻酔科科長
兼 手術部統括部長
兼 病院長補佐
佐藤 浩三

2024年4月より麻酔科科長兼手術部統括部長兼病院長補佐を拝命いたしました佐藤浩三（さとうこうぞう）と申します。

今回はご縁をいただき埼玉県立がんセンターに参りました。がん診療に携わることは

幼い頃からの目標の一つでしたから、お誘いいただいたときは大変嬉しく思いました。ここ埼玉でがん診療の一翼を支え、皆様に私が今まで経験できたことをフィードバックして参る所存です。実を申しますと義父は旧病院の緩和病棟で看取っていただいたという不思議な縁もあります。義父の終末期に本当によくしていただいたことは忘れていません。

私は1994年に筑波大学を卒業し、筑波大学麻酔科に入局しました。当時の筑波大学麻酔科は麻酔・救急・集中治療・ペインクリニックといった麻酔科学に関する全てを学べる環境でした。私自身の学生時代はアイスホッケーに打ち込み、とても真面目とはいえない生活をおくっていましたが、卒後は心を入れ替え「救える生命を失わない」ことを目標に最初の10年間、大学病院と関連の高度急性期病院（土浦協同病院やいわき市立総合磐城共立病院（現・いわき市医療センター）など）で救急救命から集中治療管理・超急性期手術の勉強をしました。その間に心臓血管外科新規立ち上げといったプロジェクトも

任されるようになりました。次の10年間は主に教育や病院マネジメントメンバーとして、AHA（米国心臓協会）やWISER Simulation（ピッツバーグ）の各種資格をとり、医学教育（特に心肺蘇生教育）に携わりました。相澤病院では救命センター・集中治療部門の整備とシミュレーションセンター立ち上げ、丸子中央病院では病院新築移転・電子カルテ導入・手術部門整備の陣頭指揮を執りました。次の10年間は高度急性期病院で救急から超急性期手術麻酔および術後管理の臨床とマネジメントを担当しております。特に直近の5年半は湘南鎌倉総合病院で手術部門のマネジメントだけではなく、病院の危機管理室のコアメンバーとして災害対応や感染対策・医師の働き方改革など臨床以外の仕事も多く携わってきました。これらの仕事を通してチーム構築の重要性を学ぶことができたと考えています。

麻酔科の主戦場は手術室内です。実際の現場を見る機会は少ないと思います。何をしているかという手術中の患者さんの全身管理・手術進行マネジメントであり、特に全身麻酔中は自身のことを訴えることができない患者さんのために代弁者（弁護士）として仕事をしています。現代の麻酔技術・麻酔薬は進歩しており、麻酔が原因で手術中に死亡する確率は10万分の1程度（日本麻酔科学会による調査結果）となっております。このような状況で患者さんの弁護士として日々外科系医師と共に病氣と闘っています。更に安全性を高めるために日々精進しています。これからも埼玉県立がんセンター麻酔科をよろしく願いいたします。



放射線技術部 部長就任のご挨拶

令和6年度より放射線技術部部長を拝命いたしました松本智尋（まつもとともひろ）と申します。歴代の素晴らしい先輩方に続いて担うことは、とても光栄であるとともに責任の重さを感じています。より良い放射線検査や治療が提供できるよう、放射線技術部スタッフと共に取り組んでいきたいと思えます。

私は民間病院に2年間勤めた後、1998年に小児医療センターに入職しました。当時の公立病院には民間病院では導入できないような高性能（高額）な装置が稼働しており、とても惹かれるものがありました。放射線医療機器は小児用に作られるものはほとんどないため、補助具や使用方法を工夫する必要があり、装置特性を理解することの大切さを学びました。上司や先輩にも恵まれ、多くの学会や研究会にも積極的に誘っていただき、成長させていただきました。学会では役員や評議員を勤める機会もいただき、参加する側と企画する側の両方を経験することもできました。また、そのような環境において多くの方々との交流の中で、CT検査の標準化について関わることができたことは今の自分にとって大きな財産になっています。

その後、2006年にがんセンターへ異動となりました。その頃のがんセンター放射線技術部の女性比率はとても低く1割程度でしたが、今では約半数近くが女性技師になっています。このことによって、女性患者への配慮を必要とする検査にも柔軟に対応できるようになり、患者に優しい医療の提供が実現できています。

医療機器の進歩も目覚ましいものがあり、近年ではAI技術を活用して高画質化や短時間化が進んでいます。放射線治療においては、高精度な強度変調照射やそれを実現するための高性能な治療計画システムにもそれらの技術が導入されています。これらの高性能装置を効果的、効率的に稼働させ、

安定した検査と治療の提供を進めていきたいと考えています。また、スタッフには技術知識を向上するために、積極的に学会・研究活動への参加・参画をしてスキルアップしていただきたいと考えています。さらに、多職種連携やタスクシェアを考慮した運営により、病院目標の達成に向けて努力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



放射線技術部部長
松本 智尋





放射線技術部のご紹介

放射線技術部部長 松本 智尋

放射線技術部の紹介をさせていただきます。

放射線技術部は、診断部門、核医学部門、放射線治療部門の3つに分かれており、男性18名、女性13名のスタッフがそれぞれの部門で業務を担当しています。また、隣接する埼玉県立精神医療センターの放射線業務も兼務しており、検査依頼を受けて業務にあたります。

診断部門では一般撮影装置、歯科撮影装置、骨密度検査装置、乳房X線撮影装置、超音波検査装置、X線テレビ装置、CT装置、MRI装置、血管造影装置を整備して検査を実施しており、内視鏡室のX線テレビ装置を使用した内視鏡検査処置にも携わります。一般X線検査では、主に胸部や腹部のレントゲン撮影、骨撮影、歯科口腔撮影、骨密度検査を行っています。また、乳腺X線撮影、乳腺超音波検査、消化管造影検査、乳腺MRI検査においては、検査だけでなく所見レポートも一次読影として提出しています。近年の医療においてCT検査はファーストチョイスとして利用される状況であり、年間27,000件を超える検査を3台の装置を駆使して対応しています。また、看護部協力の下、血管確保室を運用して静脈路確保を行うことによりCT検査効率を向上させてニーズの増加に対応しています。この方式は新病院開設時から行っており、早い時期から多職種連携の業務を行っています。さらに、MRI検査も3テスラ装置を2台駆使し、スタッフの工夫によって多くの検査ニーズに応えています。

核医学部門ではPET-CT装置、SPECT-CT装置が稼働しており、FDGによるPET-CT検査、各種放射性同位元素によるSPECT検査を実施しています。また、甲状腺の治療に代表される放射性医薬品内用法においては、神経内分泌がんの治療にも応用されて少しずつ保険適応の範囲も広がってきており、今後は前立腺癌への保険適応も期待されていることから、4階に整備されているRI病棟の利用も増えていくことと思われます。

放射線治療部門では4台の外照射治療装置を整備し、従来からの一般照射に加えて強度変調照射(IMRT)や定位放射線治療(SRT)を高精度に行える装

置を導入して、正常組織への障害を最小に抑えながら高い治療効果を得る高精度治療が行われています。最近ではこれらに加えて、患者様の呼吸に合わせて標的に照射ビームを同期する動体追尾機能を搭載した装置も導入し、動く標的に対して患者様は呼吸を止める必要がなく、負担をより少なくした照射も行っています。また、子宮癌の治療を主とする腔内照射装置も稼働しています。これらの治療を行うためにはより緻密で精度の高い照射分布を作成する必要があり、治療計画用CT装置と適切な身体保持具を用いて画像データを収集し、治療計画システムへ転送して照射計画が行われています。

近年では、AIの技術も多く利用されるようになり、業務の省力化や効率化が進んでいます。放射線技術部が使用する装置やシステムは高機能・高精度であるがゆえに非常に高額であり、更新の計画においては悩みが多い状況です。しかし、埼玉県において高度先進医療をリードしていくためには、綿密な計画の下に自信を持って提案することが重要と考えています。そして、放射線技術部の業務は放射線技師の力だけで成り立っているわけではなく、医師、看護師、医学物理士、ニチイスタッフといった多くの関係者の協力体制で成り立っています。この良好な多職種連携において、高度先進医療と日本一患者に優しい医療の提供のためにスタッフ一丸となって取り組んでいます。



◀CT装置：2管球システム搭載の高性能CT装置（SOMATOM Force）〔令和5年度導入〕
高出力、極短時間撮影が行え、高精細な画像の取得により手術支援画像などの提供に役立っている。

▶放射線治療装置（Radixact）：kVイメージによる画像照合とトモセラピー照射によって高精度な治療が行える。また、動体追尾機能によって自由呼吸下でも精度の高い照射を実現する。〔令和4年度導入〕



第1回 HBOC 当事者会開催の報告



まだ残暑の残る9月27日に埼玉県で初めてとなるHBOC当事者会を開催いたしました。HBOCとは別名遺伝性乳がん卵巣がんといい、生まれつき特定の遺伝子(BRCA1, BRCA2など)に変化があるため乳がん、卵巣がん、前立腺がん、膵がんの発症リスクが一般の方に比べて高い体質をいいます。

当事者会の当日は、がん未発症を含む当院に通院されている24名の方が参加してくれました。

最初にミニレクチャーとしてHBOC最新アップデート情報(腫瘍診断・予防科 吉田玲子副部長)、遺伝情報の有効活用(腫瘍診断・予防科 認定遺伝カウンセラー仲なつき)を行い、その後、グルー

プに分かれて乳がん看護認定看護師や遺伝カウンセラーがファシリテーターとなり座談会を開催しました。みなさんそれぞれに「遺伝についてどう家族に伝えるか」「体質とどのように向き合うか」など悩んでいることや考えていることをお互いにざっくばらんに話をされていました。実際に当事者会に参加してくださった方からは「このような機会を作ってくれて嬉しかった、また是非開催して欲しい」「今後自分がどうすればいいのか悩んだ時に仲間がいると思うと嬉しい」との声をいただきました。当事者にとっても私たち医療者にとっても実りのある会でした。この度は本会開催の機会をご許可頂き、病院スタッフの皆様にも厚く感謝申し上げます。(文責:腫瘍診断・予防科 仲)



サイエンススクール 2024

臨床腫瘍研究所 主任研究員 生田 統悟

臨床腫瘍研究所では、高校生対象のサイエンススクール「がん細胞の遺伝子解析実習」を開催しています。学校の先生からの呼びかけもあり毎年数十名の応募がありますが、スタッフを揃えても20名程の受け入れが精一杯な状況でした。研究員のみならず、実験補助の方、大学院生、さらに卒業して他施設へ就職した元院生も夏の帰省のついでに呼び戻され、ようやく態勢を整えることができました。参加者の多くは1-2年生、男子生徒が1割というのが毎年の傾向となっています。



実習は、1/1000mLのマイクロピペットの扱いから始まり、ヒト肺がん細胞の観察、DNA抽出、PCR反

応へと続きます。実験台に向かう生徒の後ろから細かな操作が正しくできているかを確認しながら、あっという間に時間が過ぎていきました。実験の後は、いくつかのブースに分け生徒との対話の場を設けました。進路や大学生活のこと、将来の仕事のことなど、興味のあるテーマについて何でも聞いてもらうという趣旨の対話です。生徒が真剣に質問する姿勢に応じるように研究員も話に熱中し、いつもとは違う時間を過ごすことができたように感じました。

高校生を前にすると、研究という活動が先人からの



蓄積の上にあることを改めて思います。「あの時、私たちはバトンを受け取ったんだな」と思ってくれる人がいてくれば、この上ない喜びであります。



X(旧Twitter)



YouTube

当センターは「全診療科予約制」「紹介制」です

詳しくはHPの受診案内をご覧ください

予約受付時間 平日の午前8時30分から午後5時まで

電話番号 048-722-3333(予約専用電話)

